



一人ひとりが大切な命！

6月30日(水)に、第1回いじめ防止集会在、リモートで各教室をつないで行われました。

生徒会執行部がファシリテーターを務め、身近な例をとり、生徒のみなさんに、あらためていじめについて考えてもらえるように語りかけてくれました。

○どんな行為がいじめにあたるのだろうか？

○「いじめかも？」と思ったらあなたはどうしますか？

○みんなが安心して学校生活を送るためにはどうしたらよいだろうか？

といったことについて、各学年からの意見を聞きました。

「人の嫌がることをしない」「友達や近くにいた先生に言う」などの意見や、「やられた側の人の話をきいてあげる」という意見も出ました。まとめの感想では、「みんな話し合っていきたい」「これまで考えなかった、これからのことを考えたい」などの意見が出ました。生徒会長の織田君からは、「常日頃から思いやりの気持ちをもって」「」という言葉が全校に向けて投げかけられました。ぜひ、一人ひとりの温かい言葉や行動で、ぬくもりのある南部中学校を作っていきましょう！



集まれ！ happiness！



6月中、生徒玄関にはハピネスボックスが設置されていました。これは、昨年度もあった取り組みで、自分がされてうれしかったことや、してあげて喜ばれた思いやりの行動に感謝し、ぬくもりの行動と幸せなキモチを広げていくための活動でした。生徒会の呼びかけに応じて、一週間で60通近くのハピネスが寄せられました。

- ・みんなしっかり掃除をしていた
- ・いつも仲良くしてくれてありがとう！一緒にいてほんとにおもしろいよ。これからもよろしくね！
- ・この前勉強教えてくれてありがとう！漢字テストの範囲だったからものすごい助かったよ！
- ・練習に付き合ってくれてありがとう。お互いがんばろうネ！
- ・部活のみんなへ 2年半いっしょに部活ができて、すごく楽しかったし、最後も楽しく終われたのでよかったです。今まで本当にありがとう！！これからは受験に向けて頑張ろう！！

など、友達への感謝の気持ちや、部活動を通しての思いなど、たくさんの温かい言葉がありました。ステキな仲間とともにいられることがとても幸せなことですね！

すばらしい行動がありました！～とある南中生の行為より～

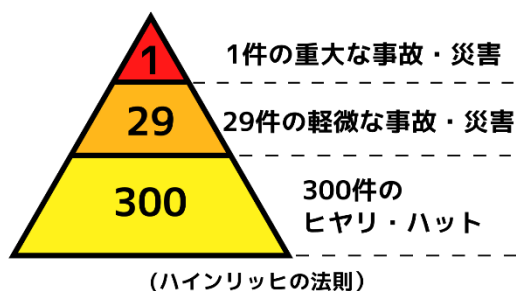
先日、本校の生徒が下校をしている途中に、よろよろと歩くお年寄りを見かけました。「危ないなあ。」と思いながら、そのようすが気になり、しばらく見守っていると、バタンと路上に倒れてしまったのです。すぐに駆け寄り、「大丈夫ですか？」と声をかけましたが、お年寄りは顔や手から出血しており、パニック状態でした。家がすぐそばだったので、家にいた兄や祖父を呼び、すぐに救急車を呼んでもらいました。到着するまで、「大丈夫ですよ。」と言って、背中をさすってあげていました。女性は病院に搬送され、手当てを受けたそうです。



このような行動は、なかなかできることではありません。その場にいたときに、勇気を出して動けたことが本当に素晴らしいことだったと思います。また、ようすが気になったときに、見守っていたという気遣いが、このような人助けにつながったのだと思います。

私たちの仲間の中に、このような素敵なお行動ができる人がいることはとても誇らしいことです。ぜひ、全校のみなさんの中にも、このような素敵なお気遣いや行為が広がっていくと、うれしいですね！

「大きなこと」の裏には「小さなこと」の積み重ねが



(ハインリッヒの法則)

みなさんは、「ハインリッヒの法則」というのを聞いたことがありますか？

この法則は、アメリカの研究者が発表したもので、次のようなものです。

何か1つ大きな事故があったときには、その裏に29の「小さな事故」があり、さらにその背景には300のヒヤリとするような小さな「異常」がある、という内容です。

この法則は、交通事故と考えることもできるでしょうが、みなさんの生活に置き換えて考えてみることもできます。

学校生活でいえば、例えば「いじめ」などが大きな事件にあたります。ではその裏に、どんな「小さな事件」があったと考えられるでしょうか。

例えば、「仲間はずれにされている」「からかわれている」などがあり、つらい学校生活を送っていたのかもしれない。

では、そうなる前にはもっと小さな出来事、「異常」があったはず。では、その背景にはどんな「異常」があったと考えられるでしょう。少し考えてみてください。

きっと、悪口やちょっとしたからかい、ちょっかいやいじり、普段の付き合いの中で体の接触などがあったのではないのでしょうか。

きっかけは小さなことでも、それが積み重なると大きな事件や事故につながります。あなたが軽い気持ちで言ったことやしたことが、もしかしたらとんでもない大きないじめに発展してしまうかもしれません。では、それらをなくしていく方法はあるのでしょうか？それはみなさんなら考えたら分かりますね。きっかけとなる小さな悪口やいじり、無視などをなくしていけばよいのです。

「小さな異常」をつくらずに、事件・事故のない、いい学校にしていきたいですね。